

副腎腫瘍の1例

京都大学医学部泌尿器科学教室（主任：吉田 修教授）

林 正 健 二*
堀 井 泰 樹
岡 田 謙 一 郎
吉 田 修

ADRENAL CYST: REPORT OF A CASE

Kenji RINSHO, Yasuki HORII, Kenichiro OKADA
and Osamu YOSHIDA*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director: Prof. Osamu Yoshida, M. D.)*

A left adrenal cyst in a 46-year-old woman was reported. She was admitted to our hospital with chief complaint of hypertension. Abdominal CT revealed a left adrenal tumor, which was removed through the left flank incision. Its pathological diagnosis was adrenal cyst.

The postoperative course was uneventful and hypertension disappeared. The Japanese literature was reviewed and discussed. This case was the 40th case in Japanese literature.

緒 言

副腎嚢腫は比較的稀な疾患である。特有の臨床症状がなく、無症状に経過することが多いため、臨床的に問題となることは少ない。

われわれは、高血圧を主訴として他院内科で精査を受け、副腎腫瘍を疑われたため当科にて手術したところ副腎嚢腫と判明した1例を経験した。この症例を報告し、あわせて本邦報告例につき若干の文献的考察を加えた。

症 例

患者：C. M. 46歳，女性，主婦。

初診：1980年4月17日

主訴：頭痛，悪心，めまい

家族歴：母が結核性腹膜炎，父が胃癌，父方の伯母が乳癌，父方祖父・母方叔母が高血圧，父方伯母が心臓疾患。

既往歴：16歳，18歳のとき左ソ径ヘルニアで手術。27歳のとき卵管結紮術と虫垂切除術を受けた。

現病歴：10年前献血時に収縮期圧 160 mmHg の高血圧を指摘されたが放置していた。6年位前より頭痛，悪心，めまい，心悸亢進，易疲労性に気付くようになった。頭痛は発作的に1日1回位起こり，約10分間持続した。1979年12月より手足のしびれ感もきたすようになった。1980年1月某院内科を受診し精査の結果，腹部CTにて左副腎腫瘍を発見された。患者の都合により同年4月17日当科を受診し，同日入院した。

入院時現症：身長 155.5 cm，体重 66 kg と肥満を認める。胸部打聴診にて異常なし。腹部に手術の瘢痕がみられるが，腫瘍は触知しない。四肢に冷感なく，発汗を認めない。

検査結果：血圧 184/104 mmHg，脈拍 84/分・整，赤沈1時間値 7.2 mm，赤血球数 $451 \times 10^4/\text{mm}^3$ ，白血球数 $4300/\text{mm}^3$ ，血小板数 $26.7 \times 10^4/\text{mm}^3$ ，血液化学；GOT 30 U，LDH 173 U，アルカリフォスファターゼ 53 U，総蛋白量 6.6 g/dl，総ビリルビン量 0.4 g/dl，コレステロール 196 mg/dl，尿酸 4.1 mg/dl，BUN 11 mg/dl，クレアチニン 0.7 mg/dl，Na 144 mEq/L，K 3.8 mEq/L，Cl 105 mEq/L，Ca 9.0 mg/dl，P 3.7 mg/dl，血糖 94 mg/dl。検尿；異常なし。内分泌学的検査；尿中 17 KS 8.6 mg/day，170 HCS

* 現 筑波大学臨床医学系

6.7 mg/day, VMA 2.1 mg/day, メタネフリン 0.08 mg/day, ノルメタネフリン 0.19 mg/day, アドレナリン 4.3 mg/day, ノルアドレナリン 155 mg/day, 血清レニン 0.6 mg/ml/hr, コルチゾール 10.9 μ g/dl, アルドステロン 51 pg/ml, T₃RIA 1.01 ng/ml, T₄RIA 6.5 μ g/dl, レグチンテスト陰性. X線検査; DIVPにて左腎上部に小児手拳大の腫瘍陰影があり, 左腎は下方へ圧排されている (Fig. 1). 腹部CTにて左腎上部に囊腫性腫瘍を認める (Fig. 2). 副腎シンチグラフィー (¹³¹イェアドステロール使用) で右副腎に異常なく, 左副腎は描出されない. 超音波検査; 左腎上部に囊腫性腫瘍が見られる. 眼底所見; Scheie H₂S₁.



Fig. 1. DIVP 30分像

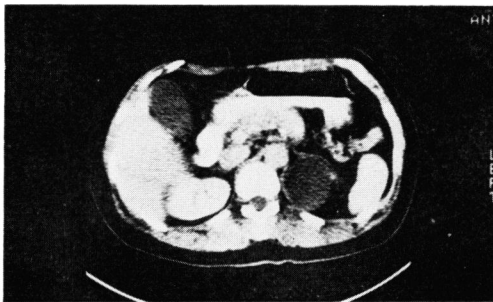


Fig. 2. 腹部CT

以上より左副腎囊腫 (褐色細胞腫の疑い) と診断し, 1980年5月23日全身麻酔下に手術を施行した.

手術所見: 腰部斜切開にて左第12肋骨を切除し, 後腹膜腔に達した. 左腎上部に小児手拳大, 暗青色, 境

界明瞭な疎性結合組織に包まれた被膜をもつ囊腫を認めた. 左腎とははっきりと境界され, 囊腫被膜の大部分は周辺結合組織より容易に剝離されたが, 左副腎と密に結合していたので, 左副腎を含めて摘出した.

摘出標本: 大きさ 4.8 cm × 4.5 cm × 4.6 cm, 摘出時被膜の一部を損傷し, 淡黄色, 透明な内液が流出したため, 正確な重量は不明である. 壁は紙様に薄く, 副腎付着部が索状をなす単房性囊腫であった (Fig. 3).

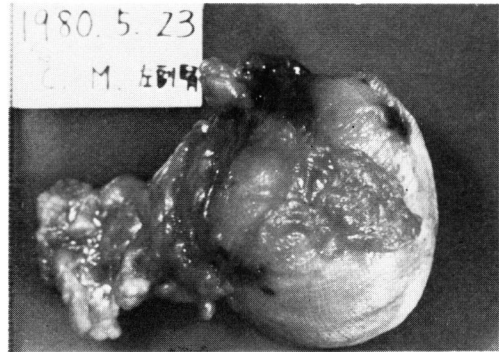


Fig. 3. 摘出標本

組織学的所見: 囊腫壁は線維性結合組織より構成され, 内皮細胞がみられる (Fig. 4). 副腎に近接した厚い部分では副腎皮質構造を認めた (Fig. 5). 以上より Abeshouse¹⁾ の分類に従えば, 漿液性囊腫と考えられた.

術後経過: 順調で, 術前みられた高血圧は消失し, 血圧は 130/80 mmHg となった. 術前・術後各数回にわたり3時間連続して血圧測定を行なったが, 術前みられた発作性高血圧は術後10日目には消失していた. 自覚症状のうち, 頭痛は術後1カ月を経た時点で

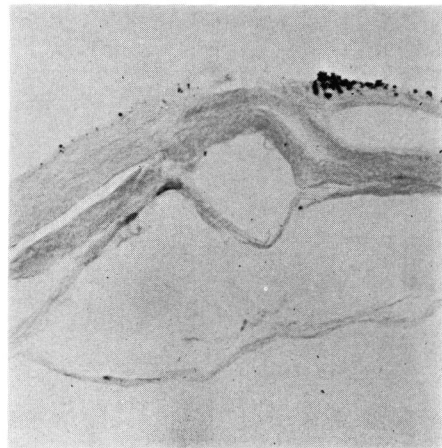


Fig. 4. 囊腫壁 ×400

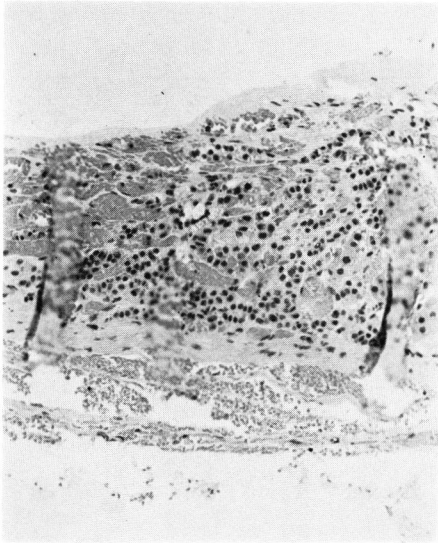


Fig. 5. 囊腫壁 ×200

もときおり生じるといふ。

考 察

1) 病理学的分類および病因

Abeshouse ら¹⁾は、1) 寄生虫嚢腫、2) 停滞性(先天性)嚢腫、3) 腺腫性嚢腫、4) 内皮性嚢腫、5) 偽嚢腫、6) 不明、として155例を分類している。これに従えば、われわれが集計しえた本邦報告例40例は、偽嚢腫21例、内皮性嚢腫7例、停滞性嚢腫7例、不明5例となる(Table 1)。

病因については、Abeshouse ら¹⁾、楠²⁾が詳しく述べているので省略する。

2) 性別、年齢、患側

本邦報告例では男13例、女27例で、男女比は、1対2.1であった。

平均年齢は男47.5歳、女43.8歳で有意の差は見られない。

患側は左25例、右13例、不明2例で、左：右は1.9：1である。

3) 症 状

Foster³⁾は220例を考察し、副腎部純痛、胃腸症状、腫瘤触知の3つをあげているが、明確な症状のない場合の方が多いという。

本邦では40例中12例(30%)に高血圧がみられた。手術により高血圧が改善した例も、しなかった例もあり、副腎嚢腫と高血圧の直接的因果関係は不明である。Abeshouse ら¹⁾は、副腎嚢腫で高血圧をきたす例は、副腎褐色細胞腫にできた偽嚢腫に限ると述べているが、本邦報告例をみる限り、彼らの説はあてはまらない。

4) 診 断

排泄性腎盂造影、血管造影、副腎シンチグラフィーでは特徴的な所見は見られない。今後は、われわれの例のように腹部CT スキャンが有用になるものと思われる。

5) 予 後

本邦報告例においては、片側の術後反対側に再発した例や、手術死の報告は見られなかった。副腎嚢腫の予後は良好と考えられる。

結 語

高血圧を主訴とする46歳の女性にみられた副腎嚢腫の1例を報告し、あわせて本邦報告例につき若干の文献的考察を加えた。本症例は、本邦40例目と思われる。

文 献

- 1) Abeshouse, G. A., Goldstein, R. B. and Abeshouse, B. S.: Adrenal Cysts. Review of the literature and report of three cases. *J. Urol.*, **81**: 711~719, 1959.
- 2) 楠 隆光: 副腎嚢腫. 日本泌尿器科全書. 8 (1), 金原出版, 東京, 1961, 64~69.
- 3) Foster, D. G.: Adrenal Cysts, Review of Literature and Report of Case. *Arch. Surg.*, **92**: 131~143, 1966.

(1980年7月18日受付)

Table 1. 副腎囊腫本邦報告例

No.	報告者	発表 年度	年齢	性	主 訴	患側	病 理 診 断	文 献
1	富 沢	'33	48	女	全身浮腫	左	リンパ囊腫	慶応医学, 13: 1151-1166
2	中 村	'62	40	女	高血圧	左	停滞性囊腫	日泌尿会誌, 53: 922-927
3	鈴 木	'63	35	女	視力障害	左	皮様囊腫	弘前医学, 15: 264
4	石 井	'65	62	男	血尿・高血圧	?	停滞性囊腫	日泌尿会誌, 56: 768
5	藤 村	"	28	女	左側腹部痛	左	偽 囊 腫	" "
6	室 久	'66	68	男	高血圧	左	"	日臨床外会誌, 27: 301
7	古 本	"	51	男	全身倦怠	右	"	臨床外科, 21: 1157-1160
8	金 子	"	45	女	左季肋部痛	左	停滞性囊腫	" " : 1165-1167
9	有 地	'67	34	男	高血圧	左	?	日医放会誌, 27: 644
10	斯 波	'68	30	男	高血圧・左腎部腫瘍	左	漿液性囊腫	臨 泌, 22: 209-213
11	土 屋	"	31	女	左腎部鈍痛	左	リンパ管腫性囊腫	日泌尿会誌, 59: 434
12	"	"	43	男	右側腹部痛	右	?	" "
13	南	"	54	男	左側腹部痛・高血圧	左	偽 囊 腫	" , 59: 439-440
14	佐々木	"	38	女	胃部不快感	左	?	日医放会誌, 28: 1201
15	公 平	'69	22	女	発熱・頭痛	左	?	日泌尿会誌, 60: 476
16	岩 動	'70	62	女	高血圧・心悸亢進	左	?	" , 61: 837
17	横 山	"	32	女	左側腹部膨隆	左	漿液性囊腫	臨 泌, 24: 1129-1134
18	佐々木	'71	45	女	腹部膨隆	右	偽 囊 腫	日泌尿会誌, 62: 395
19	上 田	"	57	女	高血圧	左	出血性囊腫	西日泌尿, 33: 658-661
20	碓 井	'73	58	女	血尿・高血圧	右	偽 囊 腫	" , 35: 36-40
21	小 林	"	42	女	頭痛・めまい	左	"	日外会誌, 74: 625
22	柴 田	"	29	女	右上腹部腫瘍	右	出血性囊腫	岡山医学会雑誌, 86: 186
23	東 原	'74	42	男	高血圧・下肢運動障害	右	偽 囊 腫	日泌尿会誌, 65: 595
24	工 藤	"	29	男	心悸亢進・嘔吐	左	"	西日泌尿, 36: 566-569
25	崔	'76	72	女	右季肋部鈍痛 腫瘍	右	"	日臨床外会誌, 37: 207
26	数 野	"	36	女	右上腹部不快感	右	"	外科診療, 18: 951-955
27	笹 尾	"	45	女	心窩部・左季肋部痛	左	リンパ管腫性囊腫	日外会誌, 77: 1453
28	沈	"	29	女	左上腹部腫瘍	左	偽 囊 腫	外科診療, 18: 1492-1497
29	井 上	'77	27	女	血尿・腰痛	右	"	臨 泌, 31: 351-354
30	仲 松	"	73	女	右側腹部痛	?	"	日臨床外会誌, 38: 697
31	田 村	"	49	女	右側腹部膨隆・高血圧	右	停滞性囊腫	広島医学, 30: 1096-1100
32	井 伴	"	45	女	?	右	偽 囊 腫	日外会誌, 78: 1117
33	藤 岡	"	50	女	左上腹部痛	右	"	日泌尿会誌, 68: 988
34	鳥 居	"	47	男	?	右	"	" " : 1100
35	中 村	'78	68	女	上腹部圧迫感	左	"	癌の臨床, 24: 848-852
36	内 藤	"	66	男	左上腹部腫瘍	左	リンパ管腫性囊腫	臨 泌, 32: 1145-1149
37	神 谷	'79	27	女	上腹部腫瘍	左	偽 囊 腫	日外会誌, 80: 80
38	姉 崎	"	49	男	高血圧	左	"	日泌尿会誌, 70: 365
39	星 野	"	43	男	左腰部痛	左	皮様囊腫	日泌尿会誌, 70: 452
40	自 験	'80	46	女	高血圧	左	漿液性囊腫	